

鹿沼市立北中学校および栗野中学校選択美術の制作活動に対する支援

研究組織	プロジェクト代表	教育学部	教授	日原	公大
事業推進協力者	鹿沼市立栗野中学校		教諭	田中	茂
	鹿沼市立北中学校		教諭	小野	潔
事業組織推進者	鹿沼市立栗野中学校		校長	福田	哲夫
	鹿沼市立北中学校		校長	矢野	正憲
	鹿沼市教育委員会		教育長	角田	昭夫

1. 目的、意義

(1) 事業の目的と意義

教育普及活動の支援と充実を目的に、大学、地域作家、中学校の協力体制を執り、鹿沼市立栗野中学校と鹿沼市立北中学校の選択教科美術の授業にて彫刻分野において（立体的表現を専門家が助言）大学教員と大学生による指導補助を継続して行う。ならびに川上澄生美術館に隣接する文化活動交流館中庭において、授業で完成した生徒作品の展示指導補助の二つが本事業の目的である。

そこで、これらの活動に宇都宮大学教育学部美術教育講座の教員・彫刻家と学生（教員志望）が積極的に指導、補助支援するように計画した。本授業を計画した背景には、最近の義務教育の現場では、美術の授業の中で感性と立体的な思考を培うのに有効である彫刻表現分野の授業が授業時間数の不足、設備の不備などの問題で、実行の機会が極端に少ないことが現状としてあげられる。

そこで、地域連携事業の機会を捉え、立体的思考を養うのに最も適した彫刻表現の実践を履行することは、中学生にとって感性を育て人間性を豊かにするために最重要なことであると考えた。加えて、首都圏を離れた地域に存在する義務教育現場では、豊富な美術教材などを有する美術館、博物館に簡単に行く事は出来ないという弱点がある。さらに、鑑賞教育の更なる実践的可能性を広げるために身近なものを積極的に再発見また活用して地域の歴史、自分を取り巻く環境を認知することで、（美しいもの・こ

と）を理解することができる様になると考えた。

また、大学生にとっては自発的な中学校現場での実習、研究考察の機会の増加により指導方法習得の上でも多いに意義がある。これを実践することにより、大学生自身が中学生の理解度を体感し彫刻表現に対する適切な指導方法を再構築できる。これらのことが大学生の立体・造形に対する指導力の向上を図り、さらに彫刻の表現力も本人自身にフィードバックされて能力が高まることになる。ならびに、生徒作品の展示機会を増すことは（教育現場の目指す目的の一つ豊かな人間性、創造性溢れる人を育むため）弛まぬ教育活動、美術活動の成果を広く市民に発表することができる。

(2) 事業の経緯

宇都宮大学地域貢献支援事業において、更なる新しい美術教育を構築する為に大学、栗野中学校田中茂美術教諭と北中学校小野潔教諭で7月に打ち合わせを重ね、大学と美術館と美術教育現場との交流の可能性を継続して模索した。本制作支援事業の具体的内容は以下のように定めた。目的は、前出の意義に基づき栗野中学校と北中学校に共通のテーマ「わたしと素材そして空間」を設定し、それぞれに選択教科美術において制作を行い、文化活動交流館中庭に展示することとした。共通テーマから各学校で更に素材や題材など考えさせ、自由な生徒の発想を促し、最後には共同展示、鑑賞を行うこととした。中学校選択教科美術を行うにあたり以下の授業目標を定め、それぞれの力を高めるように

注意した。

- ① 中学校美術の中で彫刻表現を学ぶ機会を増やし、立体感の把握、思考の組み立てや感性を高め、それを身につける。(把握力、思考力)
- ② 身近な美しさ大切なものに気付き、深く理解する。(地域に現存する(素材)道祖神に着目してそれに興味・関心を持ち仲間と楽しみながら積極的に制作に取り組み表現する)(発見力、理解力)
- ③ 共同制作をする上で意見交換し、お互いの意見に耳を傾けて、協力をして作業を進める。(発表力、協調力)
- ④ 道祖神の意味を理解して、発想・構想・理解の能力を養う。(未来に向けて「私たちの道祖神」という主題で制作する)(発想力・構想力・理解力)
- ⑤ 野外空間に設置することを考えて石材で構想を練る。(同地区に現存する珍しい双対道祖神は石材で出来ている)(空間構想力)
- ⑥ 素材の特性を生かしながら、イメージに沿った表現方法・形を創意工夫して創作する。(表現力、創意力)
- ⑦ 道祖神について存在価値の意味を理解してその良さを味わい、鹿沼市立川上澄生美術館に隣接する文化活動交流館中庭に設置する。(空間感を把握してその広さを生かすことを考える)(空間認識力)
- ⑧ お互いの作品を鑑賞をする。(鑑賞力)

(3) 支援大学生人選の経緯

本事業の目的、意義で述べたように大学生にとって、この支援事業の実践体験は個人的にフィードバックされ価値の在るものと期待される。

そこで、積極的に多くの学生に自由参加を要請したが、中学校の授業時間と大学生の自由になる時間帯の確保(時間、時期的)、すり合わせが難しく前年度から数回、栗野中学校田中茂美術教諭と協議した結果、対象学年は3年生

の彫塑Ⅲb(月曜2~4限)を履修した学生2人と院生2名の計4名を指導補助として決めた。平成22年5月から基本的に栗野中学校月曜3年選択美術の授業3,4時限、その後、午後北中学校5時限目を当てた。この時間帯は大学の彫塑Ⅲb(月曜日2~4限)の授業時間にあたり大学生に対する配慮として彫塑Ⅲbの後期授業は大学生の了解を得て水曜午後に変更をする処置を特別に行った。今回の支援事業は事前に指導者と事業者と綿密な計画をしたために人選もスムーズにいき問題はなく履行された。しかし、次年度への提言として、支援事業による指導補助を含める授業の開発、大学生の自由時間を使用しての指導補助の単位化などが考えられる。後は中学校への通学の問題である。駅に近い中学校や車を所有している大学生ならば通学の問題はないが、駅から遠く離れた中学校との連携になった場合は、円滑に安全に中学校に行ける方法を積極的に考えなくてはならない。

2. 研究方法(題材や素材)

(1) 制作(継続)

〈栗野中学校〉～自分たちの道祖神をつくろう～

鹿沼市栗野地区は、長野県安曇野市と同様に双対道祖神が存在する。栗野地区に住む生徒はその存在を知ってはいるが宗教的意味、存在理由や価値、形態などに付いて興味を抱いてはいなかった。この授業で中学生は、地域の出入り口など目に付く屋外空間に存在する不思議な道祖神を題材に、意味や形態などについて図書館やインターネットなどで研究し意味をよく理解して未来に向けた道祖神として独自の形を創意工夫して、自分たちの思いや願いなどを具現化することをねらいとしている。

また、既存の道祖神は石できているが、設置場所の環境や制作の時間などを考慮して、木材や身近な素材の良さを生かすことにした。地区内の材木屋で廃棄してしまう木材を利用

して、その彫り方、接合の仕方の工夫や電動彫刻機の活用など時間短縮を行うとともに、抽象的な形の組み合わせをすることで発想力を高めることを考えた。

〈鹿沼北中学校〉～ペットボトルワンダーランド～

ジュースを飲み終わった後のペットボトルを光にかざすと輝いて見えた。その輝くペットボトルを利用して自分たちの思いを表現できないだろうかと思った事から生徒の発想を形にすることができる。

展示空間と調和を考えながら、ペットボトルの連結の仕方を工夫し、命を感じさせるオブジェを制作する。人工物の素材ではあるが、形の持つ意味や色のイメージ、配置の工夫で現代的な作品を目指すよう支援していった。

両校ともに、能動的作業から表現の喜び、工夫する楽しさ、問題解決の達成感、幸福感などを味わう力を得ることを目的とする。

(2) 展 示

2校がそれぞれのテーマで制作した作品をお互いの空間や雰囲気と調和させながら、広場などの野外に設置することを考えた。また、展示後にお互いの作品の説明や鑑賞を行うことでそれぞれの想いや考えを理解し合う場を設定した。

このような制作を通して、環境、生活、他人との調和など美術と密接な関係が在ることに気付き、彫刻家、大学生と触れ合いながら共同制作をする事で他人と自分の関係に注意を払う優しさも育むことができる。

この授業で大学生は指導補助を積極的に行い中学生が現在考える同じ世界で試行錯誤を繰り返し指導力を養い自己の感性も育める。

(3) 制作手順

本支援事業は、発想・創造・設置・鑑賞と4つのポイントに分けて作品制作を進めた。

- ① テーマに沿って、自分達の想いを形にするアイデアを考える。(発想)

- ② デッサンやエスキースを制作する。(制作)
- ③ 素材選び(創造)
- ④ 原型に沿いながら加工、組立て(創造)
- ⑤ 完成(創造)
- ⑥ 展示・設置(鑑賞)(設置)
- ⑦ 鑑賞
- ⑧ 撤去

(4) 制作に使用した材料・道具

- ① 木材(丸太)、粘土、ペットボトル
- ② 接着剤(エポキシ系)ひも
- ③ 鉄芯、丸棒(木)竹
- ④ チェーンソウ
- ⑤ 鑿
- ⑥ 電動彫刻機、電気ドリル、カッター

3. 事業の進展状況

本事業の活動内容及び日程

以下に図表

自分たちの道祖神をつくろう(栗野中)

制作支援業務概要

1 支援対象

鹿沼市立栗野中学校3年選択美術生徒

2 指導者 田中 茂教諭・補助 大学

3 制作日程

回	月日、時間	活動内容	支 援	活動場所
1	5月10日(月) 3・4校時 10:30 ～12:30	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分たちの道祖神をつくろう」についての説明 ・道祖神の意味や形態を調べる。 		栗野中学校
2	5月17日(月) 3・4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・道祖神について、モニュメント彫刻について調べる。 ・素材について、制作手順、方法を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者(学生4名) 	栗野中学校
3	5月24日(月) 3・4校時	<ul style="list-style-type: none"> ・エスキースの検討、制作。粘土で制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者(学生4名) 	栗野中学校

回	月日、時間	活動内容	支 援	活動場所
4	5月31日(月) 3・4校時	・道祖神、モニュメントについて彫刻作家より講話（制作の動機付け） ・エスキースや制作計画についてアドバイス。	・大学教員 ・大学生4名 ・学芸員	栗野中学校
5	6月14日(月) 3・4校時	・制作（木の彫り方や、電動彫刻機の使い方）。	・大学教員 ・学生4名	栗野中学校
6	6月28日(月) 3・4校時	・制作（テラコッタ制作の仕方や補助）	・大学教員 ・学生4名	栗野中学校
7	7月12日(月) 3・4校時	・細部の制作	・大学教員 ・学生4名	栗野中学校
8	8月30日(月) 3・4校時	・制作（全体の構想に従って細部の制作をする。異素材の組み合わせを考える。）	・大学教員 ・学生4名	栗野中学校
9	9月21日(月) 3・4校時	・制作、実際に展示するイメージを創造しながら並べ方や異素材を組み合わせる。	・大学教員 ・大学生4名	栗野中学校
11	9月27日(金) 3・4校時	・制作、全体の配置を考えながら制作する。	・大学教員 ・大学生4名	栗野中学校
12	10月18日(日) 3・4校時	・制作、全体の配置を考えながら制作する。 ・展示活動を意識しながら、完成を目指して制作する。	・大学教員 ・大学生4名	栗野中学校
13	10月25日(月) 3・4校時	制作、全体の配置を考えながら制作する。	・大学教員 ・大学生4名	栗野中学校
14	12月10日(金)	展示活動現場での組み立てを行って作品を完成展示した。展示後にお互いの作品を鑑賞した。教員の講評をもらう。	・大学教員 ・大学生4名	文化活動交流館
15	12月14日(月)	制作について、反省を行う。		栗野中学校

ペットボトルワンダーランド（北中学校）

制作支援業務概要

1 支援対象

鹿沼市立北中学校3年選択美術生徒

2 指導者 小野 潔教諭・補助 大学

3 制作日程

回	月日、時間	活動内容	支 援	活動場所
1	10月4日(月) 5校時	「わたしと素材そして空間」についての説明・グループ分け。イメージを持つ		北中学校
2	10月18日(月) 5校時	・テーマを考え、形のアイデアスケッチを練る。		北中学校
3	10月25日(月) 5校時	・制作 基本支柱づくり		北中学校
4	11月1日(月) 5校時	・制作 連結キャップづくり	・大学生4名 作家	北中学校
5	11月8日(月) 5校時	・制作 たこ足キャップづくり		北中学校
6	11月15日(月) 5校時	・制作 基本となる形の組み立て	・大学生4名 作家	北中学校
7	11月22日(月) 5校時	・制作 確認と仮組み		北中学校
8	11月29日(月) 5校時	・展示準備 組み立ての手順を確認	・大学生4名 作家	北中学校
9	12月9日(金) 午後3時	・搬入、組み立て 空間を意識した配置をする。 鑑賞会	・大学生4名 作家	文化活動交流館
10	12月19日(日) 午後4時	・搬出	・大学生4名	文化活動交流館

4. 事業成果と今後の課題

中学校3年選択美術において、中学校教員との連携で彫刻制作支援、川上澄夫美術館文化活動交流館中庭での作品展示支援を行ったわけだが、中学生の新鮮な驚きの反応と満足の笑顔から当初の目的は達成されたと感じた。現実には作業上の制約はかなり在り、ハードルは高いが、指導者と作家、大学生との綿密な事前計画の下に展開されれば問題は無いことが立証された。毎回、試行錯誤して作品を制作する生徒の顔が本事業の成果を物語っている。

また、展示した作品に市民は好感を持って反応し中学生の新鮮な感性に共鳴して多くの鑑賞者が訪れた。その中で、中学生の新しい解釈の道祖神やペットボトルによる自由な形態に対して感動し

た市民の様子を目撃した。

更に、授業制作、展示期間内には下野新聞でも取り上げられ地域を始め他市町村の関心も非常に高かった。大学生の中学校授業補助の取り組みに関しては、自発的な中学校現場での実習、研究考察の機会の増加により指導方法習得の上でも多いに意義があった。この計画を実践したことにより大学生自身が中学生の理解度を知り、適切な彫刻表現指導方法を再構築し更なる指導方法を学ぶ機会が増え効果があった。

これらのことを通して、大学生の彫刻表現力と指導力が大学生自身にフィードバックされ、さらに、能力が高まった。

今後の課題として学社連携が叫ばれ増えつつある昨今であるが大学の授業カリキュラムの中で中学校の授業に合わせて参加をする日程調整の難しさ、交通機関の確保およびその費用の問題が残る。



北中の作品展示風景



栗野中学校の作品



栗野中の作品の一部